

現計画

＜基本理念＞ 市民が安全で安心して暮らせる街仙台の実現

構成 市民を取り巻く安全安心の現状及び課題を踏まえて、三つの基本目標を掲げ取り組みを推進

次期計画（平成 28 年度～平成 32 年度）

基本目標

基本目標 1 防犯力を高め育む人づくり

身近に起きる犯罪を未然に防止するために、市民一人ひとりが高い防犯意識を持ち、主体的に防犯対策を講じていくことを目指します。特に地域全体で子ども等の防犯力を高めていくことを促進します。また、犯罪や迷惑行為を防ぐため、思いやりの心や規範意識の醸成を図っていきます。

基本的施策

- 1 防犯意識の高揚を図り、危険察知等の防犯力を高める
- 2 安全教育の充実による規範意識の向上、非行防止の取り組み
- 3 特殊詐欺等の被害防止のための取り組み
- 4 子どもの防犯力の強化・育成
- 5 高齢者、女性、障害者等の防犯力の向上
- 6 防犯力を高めるための、多様な媒体を活用した情報の発信

重点

重点

基本目標 2 地域で支え合う防犯力の高い街づくり

地域全体での問題の解決などから生まれる連帯感、コミュニティを活性化し、地域の防犯力を高めます。自主防犯組織のみならず、町内会、学校、PTA、事業者やNPOなど、関係機関や団体が連携・交流し、地域総ぐるみで地域の特性に応じた質の高い防犯活動を推進していきます。また、犯罪被害に遭った方々が関係機関から必要な支援が受けられるような取り組みを行います。

基本的施策

- 1 地域コミュニティの防犯力の向上
- 2 地域における自主防犯活動の充実
- 3 地域と一体となった子ども等の見守り活動
- 4 地域の連携による防犯ネットワークづくりの推進
- 5 犯罪被害者等の支援

重点

基本目標 3 犯罪リスクを生み出さない防犯環境づくり

犯罪被害を未然に防ぐため、ハード面での市民に身近な生活環境の防犯性を高めることや、美しい街の維持により犯罪を生み出さない環境づくりを進めます。また、迷惑行為を抑止する取り組みを推進し、犯罪の発生を誘引する機会を減らすことに努めます。

基本的施策

- 1 迷惑行為等撲滅への取り組み
- 2 子どもの安全に配慮した環境の整備
- 3 犯罪リスクを低減させる道路、公園、建物等の整備促進

成果目標

- ◎特殊詐欺の発生件数の減少 (平成26年) 143件 → (平成32年) 000件
- ◎子どもを対象とした声かけ事案等の発生件数の減少 (平成26年) 246件 → (平成32年) 000件

※平成 32 年の成果目標値は、本年の発生件数を踏まえながら最終案で設定する予定です。

【基本目標 1】市民一人ひとりの防犯力の向上

市民一人ひとりが高い防犯意識を持ち、自分の身の周りから主体的に防犯対策を行うことが最大の防犯力となる。  
 ・防犯知識の深化、危険察知等防犯力の向上 ・規範意識の向上  
 ・子ども等の防犯力の育成・向上 ・情報の発信

【基本目標 2】互いに協力し支え合う地域力の高い防犯の街づくり

「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識を持ち、地域住民が互いに力を合わせ支え合う積極的な防犯活動が必要である。  
 ・地域コミュニティ防犯活動・自主防犯活動の推進 ・防犯活動団体ネットワーク化推進  
 ・防犯リーダーの育成

【基本目標 3】犯罪をつくりださない環境づくり

市民に身近な生活環境の防犯性を高め、犯罪を誘引する迷惑行為抑止の取り組みを推進し、犯罪を起こしにくい環境をつくりだす。  
 ・危険迷惑行為等撲滅への取り組み ・防犯性の高い道路、公園、建物等の整備促進

現 状

【犯罪発生等の推移】

- 平成26年の刑法犯認知件数は、平成22年と比較して80.0%まで減少。  
(ピーク時の平成13年と比較して34.6%まで減少。)
- ・刑法犯認知件数の70%以上は乗物盗等の窃盗犯が占める。
- ・特殊詐欺による被害が件数、金額ともに増加。
- ・子どもや女性に対する声かけ事案等は増加。
- 自転車事故数、放置自転車撤去数、歩きたばこ者数及び駐車違反検挙数は減少傾向。違反広告物や落書きもピーク時から大幅減。

【これまでの主な取り組み】

- 街頭キャンペーンや防犯講座の開催
- 自主防犯活動団体への支援
- 学校防犯巡視活動の推進
- 放置自転車対策、空き家等対策の推進
- 各区安全安心街づくり活動推進モデル地区における、地域団体の連携による防犯活動の実施
- みやぎ被害者支援センターへの助成

【市民意向調査に見る市民意識】

- 犯罪が発生する可能性を高いと感じている人は減少している。〔前回調査(平成22年)46.8%→(平成27年)32.9%→13.9%減〕
- 高齢者が被害者となる犯罪、悪徳商法や詐欺を日常生活で発生可能性が高い犯罪と考えている人が多い。
- 道路や公園の暗がりや見通しの悪さに犯罪発生の不安を感じている人が多い。(55.9%)
- 防犯活動の必要性については市民理解が進んでいる。  
・防犯活動は必要(89.7%)
- 防犯活動に参加したいと思っている人は多い。  
・機会があれば参加したい(53.3%)
- 迷惑行為を不快と感じている人は依然として多い。  
・自転車走行マナーの悪さ(50.0%) ・ポイ捨て(43.8%)

【推進会議における主な意見】

- 互いに協力し支え合う地域の街づくりが必要
- 暮らしやすい安全安心な環境も考えられる地域コミュニティづくりが必要
- 体感治安の向上も重要
- インターネットに起因する問題の啓発が必要
- 子どもの安全に対しては家庭教育が大事

見えてきた課題

- 振り込め詐欺などの特殊詐欺の被害が急増している。
- 子どもへの声かけやつきまといなど、軽犯罪や犯罪に至らない事案が増加している。
- 地域の防犯活動では参加者数の確保が困難で、関係団体との連携も不足している。

課題解決への視点

- 高齢者や子どもなども含め市民一人ひとりの防犯意識や規範意識を育む
- 地域コミュニティでの多様な主体の連携による地域の特性に応じた防犯活動の推進
- 犯罪を起こさせないハード整備、迷惑行為の抑止による犯罪発生の機会の減少